

いしはらのさときょうぎかい

いしはらの里協議会

～つどう ふれあう 助け合う いいとこ石原～



直販市「やまさとの市」



子供たちによる告知放送、いしはら未来会議の様子

経緯

- 過疎高齢化が進むなか、ガソリンスタンド休止、生活店舗の縮小などを契機として住民によるワークショップを開催。
- 平成24年、いしはらの里協議会を設立し、旧石原小学校を拠点に集落活動センターを開所、小さな拠点づくりに果敢に挑戦中。

取組内容

- 集落活動センターを拠点に、農産物・加工品の直販や生活店舗・ガソリンスタンドの運営、旧小学校を宿泊施設に改装した宿泊事業、各種交流事業などを実施。地域の伝統行事の継承。
- 地域資源である木材の活用策としてモデル住宅を建築し、山元から大工さんまで一貫した木材活用策と人材育成に取り組む。
- 高知県内の老舗ホテルの宿泊客を受け入れ、アメゴつかみ体験や田舎料理を提供。

活動の効果

- 地域内外の交流機会が増え、地域行事も少しずつ活気を取り戻しつつある。
- 合同会社が運営する生活店舗や直販市「やまさとの市」等での一次産品や加工品の直販をはじめ、農林業体験等の交流事業を通じて住民の所得向上に寄与。
- 若手が軸となる「いしはら未来会議」を創出、「石原の未来像について計画書」を作成し取り組みを開始。その中の「子供たちによる告知放送」は、小学校の廃校後再び子供たちの声が地区内放送を通じて住民に届き、地域に元気を与えている。

応募団体からのアピール・メッセージ

様々な活動や取組みを通じて、地域外より石原を訪れる方が着実に増え、同時に石原のファンも増えている。地域内外の協力者を巻き込みながら、体験メニューや情報発信などソフト面を整備し、5年後、10年後を見据えた持続可能な集落運営の実現を目指す。